



玉名ロータリークラブ週報

2017
2018



ロータリー:
変化をもたらす

R I 会長	■	イアン H.S.ライズリー
地区ガバナー	■	永田 壯一
会長	■	吉永 博之
幹事	■	渡邊 太朗
公共イメージ向上委員会	■	西嶋 太興

例会日 ■ 毎週木曜日 / PM12:30~13:30

例会場 ■ 〒865-0061 熊本県玉名市立願寺 50-1 司ロイヤルホテル内
TEL(0968)73-8888 FAX(0968)73-8008

事務所 ■ 〒865-0061 熊本県玉名市立願寺 540-1-102
TEL(0968)73-3399 FAX(0968)74-3939

平成 30 年 4 月 19 日 No.2384

玉名RCメールアドレス jimu@tamanarc.org

ホームページ <http://www.tamanarc.org/>

【会長の時間】 本田次年度会長

会長の時間です。今週は吉永会長が出張の為欠席ですので本田が代読します。今日はガバナー月信からです。ロータリー特別月間の4月は母子の健康月間Jです。5歳未満の幼児の死亡率の削減、妊婦の死亡率の削減、より多くの母子に対する基本的な医療サービスの提供、保険従事者を対象とした研修の充実、保健ケアの提供、母子の健康に関連した関連した仕事に従事することを目指す専門職業人のための奨学金の支援。



今世界では、病気、栄養失調、医療の不備、不適切な衛生設備が原因で、毎年5歳未満の子供630万人が亡くなっています。これは5秒に一人亡くなっていることになります。私達ロータリアンは何ができるでしょうか？

例えばポリオ予防ワクチンの接種を広め抗生物質を提供するプログラムなどを支援すること。汚染水や感染の元になる水を浄化し綺麗で衛生的な水を提供すること。これは「水と衛生」「母子の健康」の二つの重点分野に関係してきます。また妊娠中のまたは出産による合併症をなくし妊婦の死亡を予防することも重要です。こういった医療情報を医療従事者に提供するプロジェクトを組むこともロータリアンならできるかもしれません。

また母子の健康が脅かされる地域で医療に従事しようとする人々への支援も重要です。こういった活動を

成功させるためには、医療研修プログラムを地元の人が引き継いでいけるよう支援すること。また妊婦や新生児の医療に関する専門知識があるロータリアンにプロジェクトの立案に参加してもらうこと、そしてロータリーと協力してくれる専門団体を見つけ協力関係を結ぶことなどが考えられます。

これらの支援は、国際ロータリーを通じて可能でしょう。本年度玉名ロータリークラブで行った国際奉仕事業もつながっていきます。自転車贈呈、図書贈呈、浄水器設置、他にもできることがあります。私たちが今後、クラブ内で様々な取り組みについて議論してみてもはどうでしょうか。

【幹事報告】 渡邊幹事

○熊本南 RC より、例会休会お知らせが来ています。

日時：5月7日（月）12：30～

○山鹿 RC より、例会変更のお知らせが来ています。

日時：4月17日（火）⇒4月22日（日）12：00に変更

○インターアクト指導者研修会 開催 案内が来ています。

日時：6月9日（土）13：00～16：30

場所：熊本市現代美術館

○荒尾 RC より、例会変更のお知らせが来ています。

日時：5月2日（水）休会

日時：5月23日（水）

場所：ホテル有明会館⇒ホテルヴェルデ

日時：5月30日（水）

場所：ホテルブランカ⇒ホテル有明会館

日時：6月20日（水）

場所：ホテルブランカ⇒ホテル有明会館

日時：6月27日（水）

場所：ホテルブランカ⇒ホテル有明会館 18：30～ 最終クラブ協議会

○熊本東 RC・熊本東南 RC より例会取り止めのお知らせが来ています。

5月1日（火）熊本東 RC クラブ指定の休会のため

5月2日（水）熊本東南 RC クラブ指定の休会のため

○国際ロータリー第2720地区ローターアクト 第33回地区研修の案内が来ています。

日時：6月2日（土）・3日（日）

場所：ホテルサンバリーアネックス・ホテルサンバリー

大分県別府市石垣東10丁目1-20

○第3回ローターアクト会長幹事会のご案内がきています。

日時：6月2日（土）13：00～

場所：ホテルサンバリーアネックス ルナ（2F）

○熊本城東 RC 創立30周年記念式典のお礼が来ています。



○荒尾 RC より、週報が来ています。

○2017～18年度・RLI パートⅡ開催の案内が来ています。

日時：5月20日（日）9：20～17：00（登録9：10から）

開場：ホルトホール大分

会費：3,000円（昼食代含む）

○第28回玉名ロータリークラブ杯少年少女親善空手道練成大会ご支援のお礼が来ています。

【空手道大会報告】 田畑会員

4月8日の日曜日に玉名市総合体育館で朝9時からおこなわれました、玉名 RC 杯、少年少女親善空手道練成大会に行っていました。ほんとは堀本委員長が報告するところなのですが、同日、大分で地区研修と重なってしまいましたので私が報告致します。

この空手大会は28回目をむかえます。我が玉名クラブでは最長の継続事業であろうと思います。ロータリー関係者は6名の参加でした。毎年のことではありますが子供たちが懸命に試合に挑む姿はいつ見ても清々しい気持ちであります。来年は私達も多くの人数で参加したいと思います。



【スマイル報告】 吉田彰男委員長

本田エレクト会長・渡邊幹事・・・船津様、一瀬様の卓話ありがとうございます。

吉田光さん・・・3月で肥後銀行を退職し4月からマルエイでお世話になっております。

引き続きよろしく願いいたします。

渡邊知さん・・・船津様、一瀬様のご来訪心から歓迎いたします。本日の船津様の卓話金栗さんのNHKの放映が楽しみです。よろしく願いします。

田中さん・吉田彰さん・田畑さん・堀本さん・福田さん・山田司さん・吉岡さん

鶴田さん・深見さん・松崎さん・小山さん・井上さん・坂梨さん・・・小田地区金栗四三

PR 推進部会部会長船津和利様の卓話、ありがとうございます。

松本さん・・・栗原四三 PR 推進部船津様、一瀬様のご来訪心から歓迎します。

年度始めで欠席が続きました申し訳ありません。

古賀さん・・・申し訳ありません欠席します。

前回までの累計	¥775,000
今回	¥21,000
合計	¥796,000

【出席報告】 鶴田副委員長

本日の出席	会員数	53 (48) 名	欠席者	浜田 廣田 古賀 村上 村田
	出席数	27 名		前島 野田 西嶋 中嶋 小関
	出席率	56.25%		志賀 品川 高木幸 瀧川 浦田 上村 上田継 山田邦 吉永 山口 山村
前回の出席	前回出席数	6 名	前回の メイクアップ	深見 本田 堀本 井上 松崎
	修正出席数	24 名		中嶋 西嶋 小関 大石 小山
	修正出席率	56.52%		杉谷 田原 鶴田 坂梨 田中 渡邊太 山田司 山田邦
出席規定適用免除者		7 名		

【今後のプログラム予定】

4月28(日) 家族親睦例会 スローフードの店品川

【卓話】

小田地区金栗四三 PR 推進部会

部会長 船津和利様

事務局 一瀬憲司様

気力… やる気 (モチベーション)

体力… 身体の強さ

努力… 目標に向かって継続すること

気力の人、体力の人、努力の人、それが金栗さんです。

◎ストックホルムオリンピック大会

1912 (明治45年) 21歳の時にストックホルムオリンピック大会に日本人として初出場しました。

7月14日にマラソンが開催されました。ところが暑さのため26.7キロ付近で行方不明となり、気が付くと銀行家であるペトレ家のベッドに寝かされていました。

ペトレ家の長男のユージーンの証言では「彼はフラフラと入り込んで庭の長椅子に座り込んだ。話しかけても通じなかったので近くに住む英語が話せるオストバークさんを読んだ。ペトレ家の娘ベネッサさんの証言では「父が医者を呼びに行つて、ひどいに日射病で精神的にもひどくショックを受けていた」ということです。

しばらくたって肩を揺さぶられて金栗さんは意識を取り戻します。そこには友枝助教授と林中佐が立っておられ、二人に支えられながら宿舎へ戻ります。嘉納治五郎 (ドラマ: 役所広司)、大大森兵蔵 (ドラマ: 竹野内豊)、それに田島博士が部屋を訪れ労をねぎらいますが博士は「大和魂はどこに捨てた?」と憤り怒ります。金栗さんは翌日の朝の日記に、「大敗後の朝を仰ぐ。重責を全うすることあたわざりしは、死してなお足らざれども、死は易く生きるは難し。その恥をすすぐ為に粉骨砕身してマラソンの技を磨き、もっと皇国の威をあげん!」と悔しさをにじませ決意を日記に残します。この敗北を機に金栗さんは、初志貫徹「体力、気力、努力」の精神が実際に実行されることとなります。

◎高地トレーニングのきっかけ

1910年、東京高等師範学校 (現筑波大学) に入学しました。校長は嘉納治五郎氏です。広い知識、清潔な心、たくましい体をもとめ、学内では柔道か剣道のどちらか選択し、それにボート (墨田川) も。夏は千葉県館山で2週間の水泳訓練を。山育ちの金栗さんにとって水泳はあまり得意ではありませんでした。が太平洋の黒潮は素晴らしい魅力だったそうです。夕方、海の向こうに富士山が見えたそうです。あかね色の夕焼け空をバックに薄むらさきの裾野を広げる富士山の姿はたまらなく美しかったと。夕食が済むと必ず海岸に出て錦絵のような富士の山を眺めたそうです。「富士山に登って見たいと金栗は思いました。2週間の水泳訓練は終了し東京に帰るとほんとうの夏休みとなります。

玉名中学時代の学友である美川秀信 (ドラマ: 勝地涼) と熊本へ変える支度をしながら、「富士山に登っ



金栗 四三 (かなぐりしろう)

1891年 (明治24年) 8月20日 ~
1983年 (昭和58年) 11月13日

日本に高地トレーニングを導入するなど
日本マラソン界の発展に大きく寄与し、
日本における「マラソンの父」と称される。



て見ないか？」と誘います。東海道線の御殿場駅で降り、和服・ハカマに下駄ばき、教科書の入った雑のうをコウモリ傘の柄に引っ掛け登り始めました。時計は午後1時を回っていました。砂と石ころだらけの登山道を登ります。他の登山者はももひき、脚紳姿に金剛杖を手にして登ります。途中「ワラジをはかなきゃダメだよ！」とか「そんな格好では危ないですよ！」と注意されます。砂だらけの道で下駄がすべり、石ころにつまづいては足の指から血が出ます。しかし二人は構わずひたすら登ります。7合目ですっかり日が暮れついに登山を断念します。翌年2年生の夏休みに再び富士山に挑みます。ワラジ、脚紳に身を固め、御殿場口をスタートし、途中でいくらか呼吸の乱れを感じたがスムーズに頂上を極めることができました。

金栗は5～6時間の間に急激な体調の変化を感じ、頂上に近づくにつれて気圧が低く酸素の量が少なくなることによって様々なことに気づきます。

- ◎息切れのする頂上付近の苦しさは、長距離走のラストのつらさとよく似ている
- ◎裾野は30度の暑さだが頂上は冬の気候になる
- ◎下りはちょっと駆け出せば加速がつく。
- ◎登りは強靱な肺活量と足腰と粘り抜く気力を養う
- ◎下りはスピードに対するリズム感を覚える

金栗は「富士を制覇することが最高の練習方法である」と結論づけます。

◎高地トレーニング

1913(大正2年) 毎年富士山に挑んだ金栗はやがて学生の富士登山競争(2年後の第1回富士登山競争開催の企画、実行まで発展)に出場します。26歳の時、7月に富士御殿場口の橋本屋旅館で第1回富士登山合宿練習会を開催します。東京の学生で長距離走の第一線の選手約20名が、御殿場駅から登山口まで3里、さらに頂上まで4里、往復14里を毎日2週間、連日富士登山の練習にあげられます。

14日間、一日も休まず登り通したのは金栗さんただ1人だけでした。現在では高地トレーニングは当たり前とされていますが、まさに「高地トレーニング」の元祖だったのです。

◎箱根駅伝

1919年(大正8年)10月に金栗は埼玉県鴻巣の小学校の運動会に審判として招かれました。当時、沢田英一(明治大)、野口源三郎(高等師範の後輩、ドラマ:永山詞斗)も一緒でした。帰りの汽車で陸上競技を語り合っているうちあるアイデアが飛び出します。日本を飛び出して外国で長距離走をやってみたいと。沢田英一は札幌～東京間を22日間走破、野口源三郎はアントワープオリンピックで棒高跳びに出場し、パリオリンピックでは日本選手団団長を努め十種目競技に出場しました。

彼ら3人が出した結論は「アメリカ横断の駅伝」でした。日本人がこれを達成したら世界中が驚くだろう、日本で長距離競争への興味が高まるだろうと考えたのです。サンフランシスコ～ニューヨークまでを駅伝の形を取れば達成できると考えます。しかし途中、ロッキー山脈と言う山岳地帯を越えなければならない、生半可は鍛錬では踏破できないこともわかりました。

では「天下の剣」と呼ばれる箱根に挑戦し、心身を鍛えようと考えます。箱根を踏破し選ばれたメンバーを引き連れてアメリカ大陸に挑戦しようというものです。つまり現在の箱根駅伝はアメリカ横断のメンバーを選ぶ「選考会」という発想から生まれたのでした。

これを実施すると金がかかります。計算すると5万円が必要とわかりました。金栗らは新聞社に説得をし、資金調達を試みます。そこに報知新聞が前向きな姿勢をみせます。

続けて東京都内の大学に呼びかけます。

「アメリカ横断駅伝」には度肝を抜かれながら満場一致で賛成を得ます。しかし当時10人の長距離選手を集めるのは困難でした。東京師範校、早稲田校、慶応校、明治校の4校にとどまりました。1校10人で2日間で走る形式です。



金栗さんは「心身鍛錬のため一番暑い時期か一番寒い時期が良い」と主張します。金栗さんは「良識を備えた大学の選手だから審判は必要ない」とも主張。スタートとゴール地点は決められていたが、それ以外は決まりはありません。またコース上の監視員も置きませんでした。

1920年（大正9年）2月14日、箱根駅伝第1回大会が開催、東京師範校が優勝しました。金栗さんは審判長としてスタートの号砲を鳴らしました。

肝心のアメリカ横断の夢はどうなったのでしょうか？報知新聞の結論は無謀過ぎると却下されたのです。

◎女子教育

1920年（大正9年）8月、29歳の金栗は第一次世界大戦後のドイツのベルリンを視察します。そこで市民たちがスポーツに親しんでいる姿に心を動かされます。特に女の子が男の子と同様にシャツとパンツ姿で運動に励む姿に関心したと言っています。

「日本の体育会を発展させる為には、母となる女性の理解が必要である」と説きます。女子体育の必要性を痛感し女子体育の振興に熱心に向うこととなります。

1921年（大正10年）8月、東京府女子師範学校に赴任した金栗は、放課後女子生徒を校庭に引っ張り出し、今日は陸上競技、明日はテニスと放課後と利用して金栗さんの指導が始まります。羽織、ハカマに、足には金栗さん奨励の金栗足袋と。しかしながら一般的にはまだまだ女子の運動に対する世間の風あたりは強いものでした…。

金栗さんは山岸徳平（金栗さんの弟子、お茶の水付属女学校の講師）と女子テニス大会を開こうと計画します。まずは時事新報社を訪ね、企画実行を説明します。そして快諾されます。次に東京市内の各女学校を回って参加を呼びかけます。「対抗試合なんてとんでもない。女の子に対抗意識を植えつけたらどうなりますか？」「第一、しとやかさが亡くなる」「お嫁に行った旦那さんに対抗意識を燃やしたら大変」など反対されます。金栗さんに妙案が浮かびます。皇族直系の学習院を通じ「大会当日、皇族の女王殿下のご臨席を仰ぎたい」と申し入れたのです。それが見事に当たり「即座によろしい」と言う返事をもらいました。次に文部省普通学務局長を説き伏せ当日の列席を承認させます。日本初の女子テニス大会は大成功

に終わり、翌日の各新聞は一斉に大会の様態を報じました。その後しだいに金栗さんの努力によって女子の体育活動は盛んになって行きます。

最初、女学校の父兄からは「顔から手足まで真っ黒になって嫁の貰い手がなくなりますよ…」「ご飯も男のようにガツガツ食べて困ります」「帰宅時間は遅なるし、大根足を投げ出して足をさすってばかりいてどうも格好が悪い」

ところが1年も経つと生徒達の成績は上がるし、性格が明るくなり健康そのもの、そうなるに父兄たちはスポーツの健全な効果を認めざるを得なくなってしまったのです。

- 1923年（大正11年） 関東女子体育協会設立
- 1924年（大正12年） 日本女子体育協会発足
- 1926年（大正14年） 日本女子スポーツ連盟発足

力ナクリズムの神髄

体力：心身の健康
気力：初志貫徹の意思の強さ
努力：忍耐の継続



長谷川孝道氏著書「走れ25万キロ」では、こう締めくくられています。

～国家・民族興隆の原点として、自ら実践され
完走された見事な人生であった～

